

クラス番号	243	ゼミタイプ	地域研究型
		担当教員名	野崎 孝志
テーマ	「まちの問題（課題）」をテーマに政策形成のプロセスを学び、政策提案を行います		

ゼミナール概要

【目的、内容、方法等】

2000年（平成12年）4月に地方分権一括法が施行され、地方分権の扉が開きました。地域の行政は地域の住民が自ら決定し（自己決定）、その責任も自らが負う（自己責任）という行政システムの枠組みが整いました。その後、「まち・ひと・しごと創生法」は、日本全体で進行している人口減少や地域間の格差拡大に対処し、地方の活性化や持続可能な発展を目指すために施行されたところです。この法律に基づき、地方自治体による様々な取り組みが進められていますが、人口減少や地域格差の問題は深刻な状況となっています。今後は、より一層の具体的な成果を出さなければなりません。現在、自治体間の連携や新たなビジネスモデルの創出が求められています。

このような中、公務員をめざす皆さんが積極的に自主自立した地域づくりの主体としての役割を担っていくことが求められています。そのためには、住民の視点に立った個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現をめざし、一人ひとりが政策形成能力を向上させることが重要であり、本ゼミでは政策形成能力プロセスの習得をめざしていきます。今、公務員には、政策形成のプロセスが必要なのです。

私は元滋賀県彦根市の職員であり、「ひこにゃん」「国スポ、障スポ誘致」「介護福祉」「病院経営」等に就いたまちづくりの経験を伝えていきます。退職後、商工会議所職員としてまちづくり、特に彦根城の世界遺産登録のまちづくりに携わってきました。この経験・知識も併せて皆さんに伝えていきます。

【授業計画】

現在の公務員に不足しているスキルが「政策形成能力」です。その必要性を学び、自らの考え方を整理し、政策は市長、町村長だけが考えるのではなく、すべての公務員は政策に携わっているのだという認識を持つてもらいます。政策形成能力の講義では、まず、政策形成プロセスを学んだ後、滋賀県彦根市での課題を抽出し、政策形成のプロセスを体験します。課題解決を図るプロセス、考え方は、今後様々な公私の場面で活かせると思います。その結果を用いて政策発表会を行い、課題を抽出した彦根市の職員等の前での発表会を実施します。本演習では課題発見に必要なスキルとし、身近なテーマからブレインストーミング法、KJ法、特性要因図等を使い、さらに同手法を用いて解決策を導いていきます。また、アイスブレイキング等を使い、ファシリテーション能力も併せて習得していきます。

担当教員からのメッセージ



本ゼミは将来公務員になりたいと強い思いのある学生を対象とします。エントリーシートには、志望理由や、なぜ公務員になりたいかを必ず記入してください。公務員は枠の中に留まるだけではだめです。『住民の視点』に立つことが大切です。特に、公務員福祉職を目指す学生には、『弱者の視点』の考えを学ぶ必要があります。学生として、まず今、住んでいる住民（一個人）として、「あ～すみにくいなあ」「あ～なんでこういうサービスしてくれへんのやろ」「こうしたらもっとまちがよくなるのになあ～」など、役所に対して思うことや、こうしたらもっと街が、安全に、または衛生的に、健康に、便利に、楽しく、快適になるということを共に考えていきたいと思えます。なお、休暇中に滋賀県彦根市へ「まちの問題（課題）」をヒアリングし、合宿でワークショップを行いますので、必ず参加してください。本ゼミは社会人としてのマナーも併せて学びます。公務員は住民の模範となる職業です。遅刻、欠席がないようにしましょう。とにかく「授業は楽しいことが一番」、共に楽しみましょう